

IV. 事業実績報告

1. 技術開発の方向と全体計画

(1) 技術開発目標

種苗生産：殻高 7 mm サイズの稚貝 10 万個体を生産するとともに、種苗生産の省力化技術を確立する。

中間育成：殻高 25mm サイズまでの中間育成を実施し、放流稚貝 2 万個体を生産する。また、低水温期の斃死要因と対策を検討する。

放流技術：殻高 25 ～ 30mm の種苗を放流し、白保、竹富海域の礁斜面に分散放流する。ピーターセン法などにより、放流場所の資源量を推定する。

標本船調査などにより、放流を行った漁場における資源量の変動について把握する。

漁獲物調査により漁獲実体を把握するとともに、放流効果について明らかにする。

(2) 年度別事業計画

調査項目		技術開発の概要 (年度別計画)	年度別計画				
調査項目	技術開発項目		7	8	9	10	11
種苗生産	種苗生産の 省力化技術開発	親貝養成技術開発	◎	◎			
		幼生飼育技術開発	◎	◎			
中間育成	中間育成の 省力化技術開発	種苗生産試験	◎	◎	◎	◎	◎
		施肥効果試験	◎			◎	
		昼間採卵試験					
		中間育成試験	◎	◎	◎	◎	◎
		施肥効果試験				◎	
		餌料試験	◎	◎		◎	
		餌料培養試験				◎	
放流技術	標識放流試験 漁獲物調査 標識脱落試験 放流効果の検討	保存試験					◎
		加温試験					◎
		標識種苗放流、追跡調査	◎	◎	◎	◎	◎
		漁獲サイズの把握、標識調査	◎	◎	◎	◎	◎
		飼育試験による標識脱落状況調査				◎	◎
漁業実態調査	漁業実態調査	漁獲物調査結果の検討及び標本船調査等から放流効果について把握する					◎
		沖縄県及び八重山海域におけるヤコウガイ漁獲量と漁獲高の把握	◎	◎	◎	◎	◎